

将来的な備えは大丈夫ですか？

デジタル トランスフォーメーション の時代へ

破壊する立場になるか、破壊される立場になるか

進化する顧客ニーズ、新しいビジネスや消費モデル、そして激化する競争は組織に変革を迫っている。

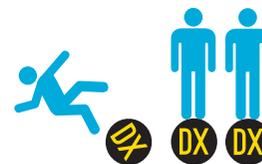


Source: IDC Asia/Pacific C-Suite Barometer

DX



DXは、**全業種**に影響を与えている。組織は、破壊する立場か、破壊される立場のいずれかになる。



ほとんどの業界において、市場シェアトップ20の3分の1は2018年までに**新たに出現する競合他社によって破壊されること**になる。



2017年までに、DX戦略を採用する企業の60%があらゆる機能分野でDX戦略を展開することが非常に重要であると判断し、この戦略の実施を監督する**専任の経営幹部の役職**を設ける。

Source: IDC FutureScape: Worldwide Digital Transformation Predictions – Leading Digital Transform to Scale – APEJ Implications 2016

DX

DXは、新しい競争領域となる

デジタル経済が深化するにつれ、IDCでは、生き残りを志向する**フォロワー組織**と、事業の成功を享受する**リーダー組織**が存在すると予測する。

発展していく組織は、DXビジョンを実践し、デジタルと実体験の両面のエクスペリエンスを融合することに成功している組織である。これは、新しいビジネスモデルに基づいて、情報を競争優位に変換させ、新たなデジタル収益源を生み出していることを意味する。

DXトランスフォーマー

特徴

- **全社的に統合された一連のDXイノベーション**が業務および顧客/サービスエクスペリエンスの向上を目的に採用される。
- **スタートアップ企業**および「最先端」企業の試行的なDXに関する成果を**手本とする**ことで、競合他社に先行できるように取り組んでいる。
- ワールドクラスの**デジタル製品、サービスおよびエクスペリエンス**を提供する市場のリーダー的存在。

DXディスラプター

特徴

- **新しいビジネスモデル**や製品/サービスエクスペリエンスを創出することにより、市場や顧客を変革するためにDXを使用する。
- **安定性、規模および業務継続性**を提供する社内人員配置、構造およびプロセスの開発に焦点を合わせる。
- 既存の市場を作り変え、また**自らが優位に立てる新しい市場を生み出す**。これにより競合他社の追随を許さない地位を築く。

DX ジャーニー

デジタルトランスフォーメーションとは、企業がデジタルコンピテンシーを活用することで自社のビジネスモデルやエコシステムにおける変化を推進するアプローチである。

リーダーシップ

DX



パートナー、顧客および社員に提供する製品、サービスおよびエクスペリエンスの価値を最大化するためのDXのビジョンの開発に焦点を合わせる。

オムニ エクスペリエンス

DX



多様で遍在するエコシステムを重視し、独自の差別化したエクスペリエンスを継続的に拡充させる。

ワークソース

DX



企業による内外リソースの効果的な調達、導入および統合によるビジネス目標の達成方法の進化を対象とする。

オペレーティング モデル

DX



デジタルに接続される製品/サービス、資産、人および取引パートナーを活用することで、業務のレスポンスや効果の向上を目指す。

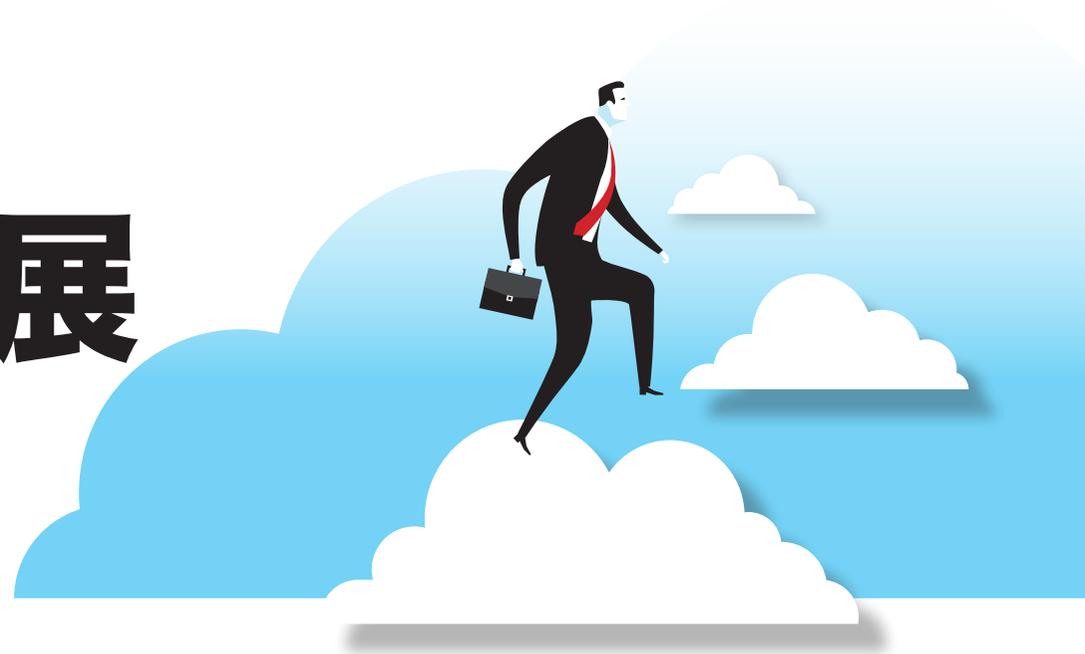
インフォ メーション

DX



顧客、市場、取引、サービス、製品、有形資産および事業エクスペリエンスに関連する情報価値の抽出/開発に焦点を合わせる。

DXの発展



IDC予言



2016年
~2017年に加
速するDXの採用

× 2

2016年~2020年
は、高度なDX戦略を
採用する企業の割合
が2倍に拡大すること
が見込まれる。



2018年までに、B2Cの80%と
B2B型事業組織の60%が、「**デジタルフロントドア**」を抜本
的に再構築し、“**顧客とのコン
タクト・ポイント**”を現在よりも
1,000~1万倍に拡大する。



アジア太平洋地域のトップ
1000圏外の企業の**15%**は、独
自の取り組みを進めるものの、残
りの大多数は自社サービスの提
供先、販売先あるいは競合する
大企業による**DXに取り込まれ
る**であろう。



B2C型事業者が最初の導入者であったが、B2Bや
**政府/公共事業セクターの事業組織の少なくとも
60%**が、DXに乗り出している。

DXの 基本設計

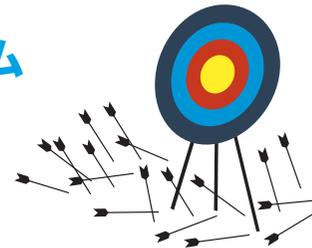
DXの事業戦略やプロジェクトへの集中度を高めることは、技術投資の拡大につながる。つまり、既存の企業アーキテクチャの根本的な変更を必要とするか、あるいは高度な事業要件に対応するためのコアとなるIT構造の最新化を推進しながら、プロセスやオペレーティングモデルの両面の変革に投資することである。このすべてが、2016年以降には、ITとビジネスリーダーに大きな影響を持つことになるであろう。

60% のDXイニシアティブがシステム規模を拡大できなくなる

2017年までに、DXイニシアティブの60%が戦略的なアーキテクチャの不足のため規模の拡大ができなくなるであろう。

組織は、適切なエンタープライズ・アーキテクチャの構築に焦点を合わせる必要がある。これによって、短期的なソリューションにおいても、アジリティ(迅速性)とスピードの向上に役立つことになるであろう。戦略的なアーキテクチャは、企業DXを支える各種キーコンポーネントの調整/統合の一端も担うことになる。

DXの規模拡大に向けて、成功に導くアーキテクチャへのイニシアティブによって、競争力のあるスピードとコストを持つ社内外サービスを仲介する柔軟性のあるプラグ&プレイ環境が整備され、この取り組みの推進役をITが担う必然性が生じる。



2017年までに、組織のICT関連支出の60%以上が**第3のプラットフォームに関わる技術、ソリューションおよびサービス**に向けられ、2020年までに約80%に上昇する見込みである。

IDCの提言

ITバイヤーのなすべきこと

- 1 IT部門は、組織に対して本当にかかるITコストの理解を促し、**社内外のサービスの調停役**として機能することで、サービス調達面で事業を支えなければならない。
- 2 コスト、スピード、可用性およびパフォーマンスの面でITが優位性を持つことを保証し、**社内の新たなサービス**の開発プロセスとそのサービスカタログへの展開までの流れを確立しなければならない。
- 3 LOBおよび選出されたキーマネージャーは、全社的にこのアジェンダを推進していくために、その利点と制限を含めた**アーキテクチャフレームワークトレーニングの基本レベル**を習得しなければならない。

DX 成熟度の道のり

組織は、DXに熟達しビジネスを拡大させるか、DXの習得に失敗し生き残りをかけて取り組むかのいずれかになるとIDCはみている。また、ビジネスリーダーは、規律だけでなく、デジタル上の収益を生み出す相互作用を融合、管理するという錬金術をも習得しなければならない。

DXの5つのステージ

個人依存



デジタル抵抗者

ビジネスとITは連動しておらず、企業戦略とも整合性がない。カスタマーエクスペリエンス戦略の検討も見られない。

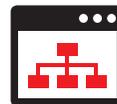
限定的導入



デジタル探索者

デジタル技術を活用した顧客主導型のビジネス戦略が重要という認識はある。しかしプロジェクトベースでの実行であり、継続性は見られない。

標準基盤化



デジタルプレイヤー

デジタル製品やカスタマーエクスペリエンスを創出するに当たり、ビジネスとITのゴールは全社的に連動している。しかしデジタル化の破壊的可能性については、検討していない。

定量的管理



デジタル変革者

統合され、相乗効果の高いビジネス/ITマネジメントの指針により、デジタル技術を活用した製品/サービス/エクスペリエンスが継続的に投入される。

継続的革新



デジタル破壊者

デジタル技術の活用やビジネスモデルを積極果敢に破壊し、マーケットに影響を与える。エコシステムとの連携も持続的であり、ビジネスイノベーションをもたらす。

DX時代への備えは万全か？

目標に向かって発展していくのか、あるいは単に生き残ろうとするのか。組織が成功する機会は限られている。DXの次の5つの特性に関する、IDCの提言内容を考慮されたい。



リーダーシップ



- CEO、CFO、CIO、COOおよび他の主要幹部を含む指導者委員会を通じて、すべてのDXプログラム、製品、サービスおよび機能を調和させる。
- リスクを負う文化を破壊することなく組織の安定性を成長させながら、実験精神に富む文化を維持するように組織に挑戦する。

オムニ エクスペリエンス



- 多次元エクスペリエンスの自律的な改善を目的としたエコシステムの利用を一体化するためのデジタル技術の使用能力を対象としている。
- オムニチャネル、オムニエクスペリエンスの事業価値を転換するためにエコシステムでの認知を調整する。

ワークソース



- 試験的なリスク耐性のある事業プロジェクトを通じて最先端のDX関連企業の買収または提携を行う。
- 「限定的導入」の反対—DXに関するR&Dにおける先進的な思想の持ち主に報酬を与えて、動機付けを継続する一方で、業務開発および測定、マーケティングおよびその他の重要なプロセスに関するスキルを組織に植え付ける。

オペレーティング モデル



- デジタルオペレーション担当責任者のリーダーシップの下でデジタルオペレーショングループ(DOG)のコンテキスト内にあるすべてのデジタルオペレーションを統合。
- すべてのオペレーティングモデルが、高い認知度で、自律的かつコンテキスト上で認識されているデジタルフレームワークに忠実に運用されることを目指している。

インフォ メーション



- 製品、顧客および市場に関する取得データのマネタイゼーションを目的としたリアルタイム予測分析の取得。
- 新しいDX製品やサービスに関するキードライバーとしての情報に対する取得/評価を行うデータアルゴリズムの使用。

Source: IDC Asia/Pacific C-Suite Barometer 2015
IDC FutureScape: Worldwide Digital Transformation Predictions – Leading Digital Transform to Scale – APEJ Implications 2016
IDC AP Digital Transformation Research Practice

Copyright 2016 IDC. Reproduction without written permission is completely forbidden.
本IDC InfoBriefは、IDC Asia/Pacific Go-to-Market Servicesによって製作されています。広告、プレスリリース、宣材の中でIDCが発表した情報を使用する場合、またはIDCに言及する場合には、事前にIDCの書面による許可が必要です。
詳細については、www.ap.idc.asiaをご覧ください、メールで gmsap@idc.com までお問い合わせください。